

電話相談件数は120件の減少 低貸玉ユーザーでも注意必要

パチンコ依存問題への無料電話相談を行うリカバリーサポート・ネットワークが、10年度の電話相談の内容をまとめた『ばちんこ依存問題電話相談事業報告書』を公表。報告書によると10年度の相談件数は1185件で前年度より120件の減少となった。また、10年1月から問題を持つ本人を対象とした遊技実態の調査項目では、低貸玉の利用が30%で、相変わらず来店頻度が高く使用金額も高額であった。

総件数および月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2006年度	110	102	82	86	119	90	87	57	38	93	54	71	989
2007年度	72	68	52	50	66	93	72	56	33	46	63	175	846
2008年度	103	114	90	113	98	94	92	83	85	95	108	112	1187
2009年度	128	128	128	124	112	120	103	79	71	70	115	127	1305
2010年度	117	133	125	93	95	120	113	87	66	68	79	89	1185
総計	530	545	477	466	490	517	467	362	293	372	419	574	5512

相談件数は若干の減少
男女比等は変わらず
10年度の相談件数は1185
件。うち685件(72%)が問

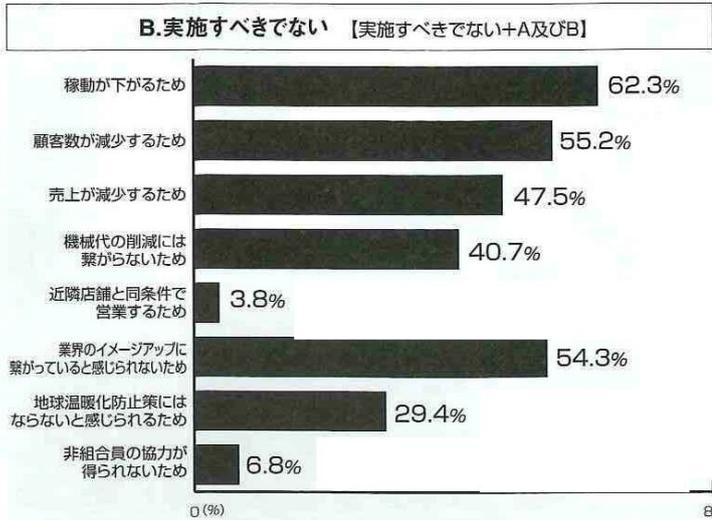
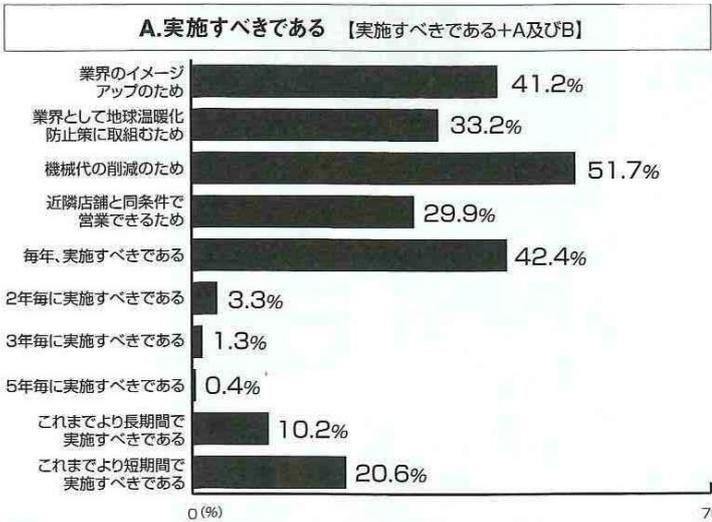
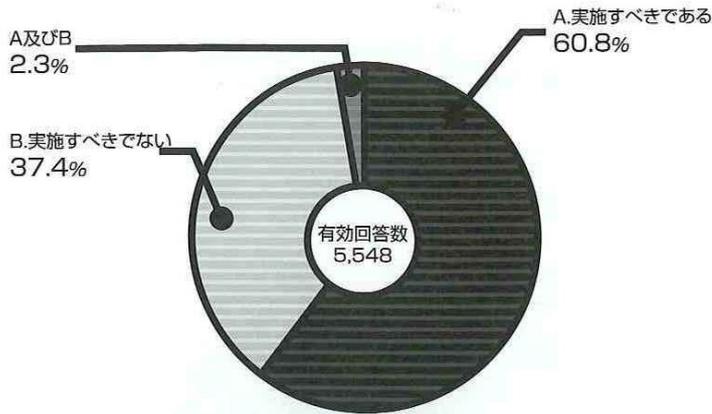
題を持つ本人、263件(28%)
が家族・友人等からの相談とな
った。09年度は1305件だっ
たため120件の減少となった。
また月別では、09年度が11

1月の3ヶ月以外で相談件数が100件を超えていたが、10年度で100件を超えたのは4月6月と9・10月の僅か5ヶ月。特に7・8月と2・3月で前年度より相談件数が減少した。3月については東日本大震災が発生月であり、東北を中心に東日本からの相談が減少したと推察される。1ヶ月の平均相談件数は98・8件だった。

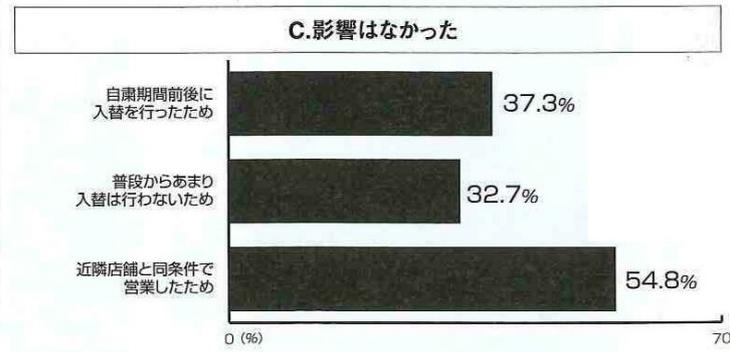
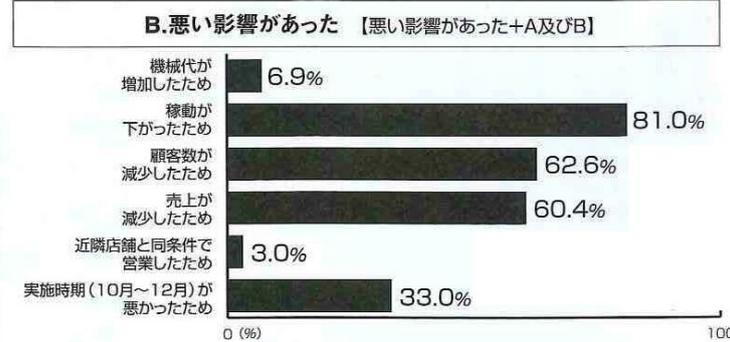
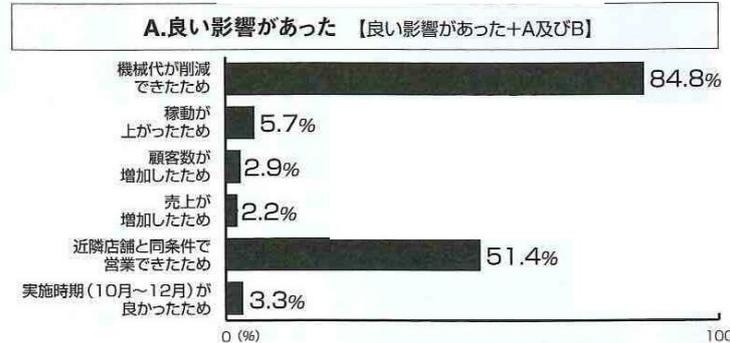
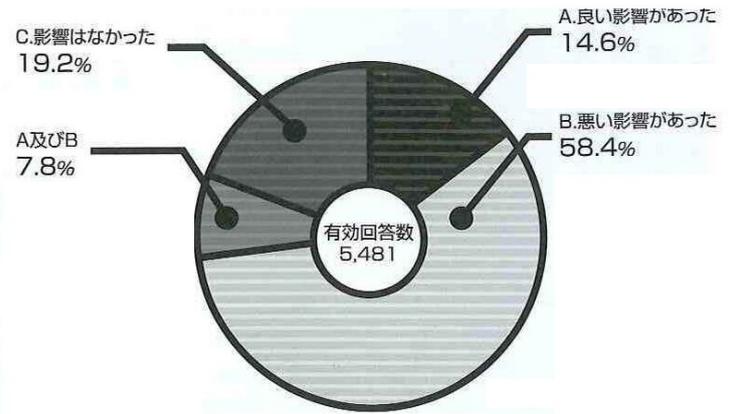
電話を掛けてきた相談者(コラー)の性別では、男性が56%、女性が44%と男女間で大きな差がないのは前年度通り。問題を持つ本人(対象者)の性別でも、男性が73%、女性が27%と前年度との相違はない。対象者の年齢では20代(22%)、30代(29%)、40代(23%)の3世代に集中している。やはり、男性中心の娯楽のため対象者の男性比率が高く、遊技層の中心である30代、40代からの相談が多い傾向となっている。コラーの女性比率が高いのは、対象者の配偶者(妻)や母親からの相談が多いからだ。

次に相談経路だが、問題を持つ本人は、ほぼパーラー内ポスター(76%)とインターネット(13%)から相談につながっている。逆に、家族・友人の相談経路では、インターネット(40%)の割合が高く、続いてパーラー内ポスター(18%)と他の

今後、入替自粛を実施することについてどのように思われますか？



今回の入替自粛を実施して、店舗営業上及び経営上影響はありましたか？



同条件で営業できたため(51.4%)などがあがった。今回の入替自粛期間については、「妥当であった」が39.7%となる一方、「長かった」が55.1%と過半数を超える結果となった。ちなみに自粛期間の最長は46日間、最短は16日間、51都府県方面の平均自粛期間は34.74日だった。

今後の入替自粛の実施については、「実施すべき」が60.4%となった反面、「実施すべきでない」も4割近い37.4%に上った。実施すべき理由としては「機械代の削減」をあげ、実施すべきでない理由ではやはり営業や経営面への影響がネックとなっている。

ただし、これまでのように国際会議等が開催された場合の入替自粛については「実施すべき」が65.8%となり、ただ単に入替自粛を実施するよりも賛同に理解を示す割合が増える結果となった。

また、その際の入替自粛の実施方法については、「全日遊運主導の下、全国統一期間で実施」が56.3%となり、「各地域毎の実情に応じた期間設定で実施」は22.3%となった。今回のように自粛期間に差が生じたことへの不公平感、不信感が反映していると思われる。